

V57c **中国西部域サイト調査 2009 - チベットオマ地区での調査概況と調査機器構成**
佐々木敏由紀、大島紀夫、吉田道利、三上良孝、岡田則夫、小矢野久、安藤裕康(国立天文台)、姚永強、王俊傑(中国国家天文台)

中国西部域は経度 75-100 度に位置し、汎地球的天体観測網を構築する上で重要な地域でありながら、天体観測環境についての情報が欠落している地域である。中国西部域での天体観測環境を明らかにするために、我々中国国家天文台と国立天文台のグループは共同で天体観測サイト調査を 2005 年度より行っている（日本天文学会 2005 春、2007 年秋、2008 年春/秋）。

現在中国西部域二カ所に天体観測基地を開設し、天体観測条件の調査を進めている。これまでは、カシュガル市南西にある標高 4500m のカラス地区でのサイト調査を主体に進めてきたが、2008 年 11 月にチベット西部域にあるオマ地区（標高 5000m）に、中間赤外線カメラ同架の雲モニター装置、気象ステーション、微熱乱流計測装置（CT2 装置）を設置した。オマ地区での調査概況を、カラス地区での調査状況と併せて、報告する。

また、オマ地区では、台湾、中国共同での衛星通信設備が利用できる状況になったので、天体観測環境調査機器の相互連携と取得データの集約・リモート転送についての構想についてふれる。